

六ノ一四 沙門貞慶笠置寺舍利講仏供勸進状

出典 弥勒如来感応抄（東大寺所蔵）

解説 貞慶に帰依した八条院は、この勸進をうけ、舍利講料として伊勢国蘇原の土地を寄進した。

原文

笠置寺

一千日舍利講仏供料事 毎日十杯
合三升

右釋迦大師遺身舍利於補処慈尊御前欲展供養盖眞報仏恩也若捧少供必為見仏聞法發心得道之勝因矣仍奉唱如件

建久七年四月十四日

沙門貞慶

読み下し文

笠置寺

一千日舍利講仏供料の事。毎日十杯 合三升

右、釈迦大師遺身の舍利、補処の慈尊の御前に於いて供養を展べんと欲す。盖（蓋の俗字）し眞に仏恩に報んがため也。若し少供を捧ぐとも必ずや見仏聞法（仏にまみえて教えを聞くこと）、發心得道（仏道に入る志をおこし、悟りを得ること）の勝因（善果をもたらす善因）と為さん。仍って唱え奉つること件の如し。

建久七年（一九六年）四月十四日

沙門貞慶